決議案第３号「２０２５年国際博覧会の誘致に関する決議案」に反対する討論

決議案第３号、「２０２５年国際博覧会の誘致に関する決議案」に対して、日本共産党宇治市会議員団を代表して反対の討論をおこないます。

本決議案は、２０２５日本万国博覧会誘致委員会の「開催国決定に向け、大きなアピールになる」との要請を受けて、提案をされているものです。しかし、本決議案が誘致、促進をする２０２５年の夢洲（ゆめしま）を会場とする国際博覧会は、大阪府・大阪市などが夢洲（ゆめしま）の再開発を、カジノが目玉であるＩＲ誘致を中心に進めるなかで、カジノ誘致と一体となった国際博覧会であり、カジノ万博には反対です。

国際博覧会の意義と役割を否定するものではありません。しかし、カジノの誘致と一体となった国際博覧会の誘致は、国際博覧会条約で「公衆の教育をおもたる目的とする」「人類の活動の達成された進歩、将来の展望を示す」とした国際博覧会の趣旨にも沿っていません。

大阪府・大阪市、関西経済連合会、関西経済同友会。大阪商工会議所で構成する夢洲まちづくり構想検討委員会がまとめた「夢洲まちづくり構想」では、第１期にＩＲの中核となるカジノのほか、ホテルや商業施設を誘致したうえで、第２期に国際博覧会の会場として整備し、第３期に長期滞在型リゾートを整備する計画です。

大阪府は万博の基本構想案のなかで「万博会場の隣接地にカジノを含むＩＲを誘致する」ともしており、カジノを中心とするＩＲ推進にこそ、２０２５年の国際博覧会誘致の狙いがあります。

日本の刑法が賭博行為を認めていないのは、ギャンブル依存症での生活破たんなど社会的弊害が大きいためです。カジノは刑法が認めない賭博そのものです。特にカジノは利益の７割以上が運営をする海外事業者の利益になり、賭博で負けた人のお金を利益とする、人の不幸によって成り立つビジネスです。カジノと一体となった計画では、今回誘致を目指す国際博覧会のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」が描けるはずがありません。

本決議案が誘致をめざす国際博覧会は、カジノ誘致が本来の目的であるカジノ万博であり、本決議案に反対をするものです。